

自立課題って何だろう？



自立課題という言葉をご存じですか？

「自立課題」＝「自立活動」という意味ではありません。「自立活動」には6つの区分（1 健康の保持 2 心理的な安定 3 人間関係の形成 4 環境の把握 5 身体の動き 6 コミュニケーション）と27の項目があり、児童生徒の障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識・技能・態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うために行う指導領域です。「自立活動」＝「自立課題」の時間ではありませんが、自立活動等の中で、ねらいと合致する指導内容に「自立課題」を用いるなど有効な活用が期待できます。

では、自立課題って何でしょう。

「自立課題」とは「構造化」という手法を用いて、**初めから終わりまで自分一人で行うことができるように設定された活動**を言います。

自閉症の人は社会性の障害から、「始まり」と「終わり」を自分でコントロールしにくい場合があります。しかし、物事には必ず**始まりがあって終わりがあります**。そのため、自立課題にも必ず、明確な「始まり」と「終わり」を作ります。また、「終わり」を学ぶことは、次の活動への移行のタイミングを学ぶきっかけにもなります。自立課題を作る時は、自閉症の人が分かりづらい「時間的・空間的なもの、活動の順序など」を**その人が分かる方法**で作っていくことが大切です。

支援者と関わらない時間も大切です。自分のペースで物事に主体的に取り組む時間をつくり出すことはとても大切なことであり、一人で取り組み続ける力が将来の「働く力」につながります。

自立課題では、最初から最後まで一人で取り組む力や自信を培い、いろいろなことに取り組む意欲を育てることができます。また、認知や言語理解など学習の基礎スキルだけでなく、職業スキルの向上も図り、将来の自立した生活につなげることができます。

自立課題を始める前に～時間の構造化 スケジュール～

自分で準備して、自分で学習を始め、自分で終わって、自分で片づける。最初から最後まで**一人で行う**ことが大切です。これが「主体的に活動を行う力」や「働く力」を培っていきます。



1日のスケジュール（教室用）

・一日の活動の流れを写真やイラスト、文字等、子ども実態に応じて提示する。活動の流れは上から下に進むようにする。

・時間割を掲示するようにしてもよいが、時間割だけでなく、休み時間等に何をしたらよいか困らないようにするため、トイレ、給食、昼休み、帰りの準備なども掲示する

・活動ごとにカードを取るが、取ったカードは上のポケットに入れるようにする。

・記憶の保持が難しい場合は、カードを持って移動する。次の移動箇所に入れるようにポケットを作る。





ワークシステム

・授業の一時間等、一つのまとまりのある活動の時間で、何をして、何をしたら終わりなのかを提示する。活動は、上から下の順に提示する。

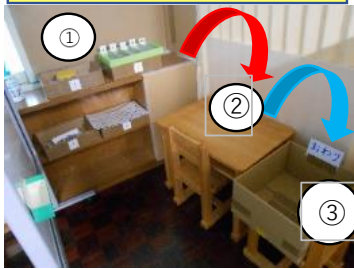


・このマークは中止マークとなる。予定していた内容が変更になった際に上から貼り中止とする。



・このマークは追加マークとなる。予定していたスケジュールに別の内容を新たに組み込む際、追加挿入する。

一人で勉強のスペース



ワークシステムを示す①

※先生と勉強の中でやり方を学び、一人で学習できるようになった活動を取り入れる。(学習が定着してない内容は、一人で進めることができないため **✖まだ取り入れない!**)

①左側の棚に置いてある箱を順番通りに取り、学習を進めていく。

②学習はスペース内の机で行う。

③終わったものは「おわり」の箱の中に箱ごと入れていく。

④棚の箱が無くなったなら一人で勉強は終了となる。

※学習は飽きないようにする。又、時間内に終わる内容を組む。

ワークシステムを示す②



②本時で学習するワークの番号カードを貼っておく。

「手伝ってください」カード。分からない時や手伝ってほしい時に使います。困ったときに人に依頼する練習です。

①一人で勉強のカードをボックスに入れます。

③椅子に座り、ワークシステムの番号カードを上から順に取り、ワークのかごの番号とマッチングさせてかごを取り出す。

かごに入っている勉強を**一人で**上から下まで進める。

④課題が終わったら箱にカゴごと入れます。

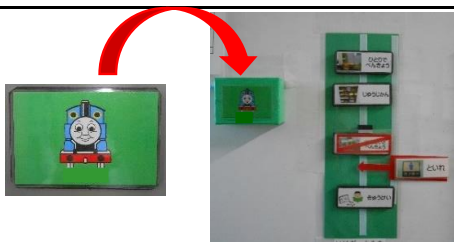


トランジションカード

・このカードを渡されると、「**今やっている活動を止めて、スケジュールへ戻って、次の活動を確認しなさい**」という意味になり、スケジュールへ戻させる際のアイテムとなる。

・子どもが好む色をシンボルカラー、好きなキャラクターをカードの目印にすると興味がわく。

・本人の顔写真を入れても良い。



・「今、やっている活動を止めさせ、子どもをスケジュールに戻し、次の活動を確認させる」際は、トランジションカードを手渡す。

・手渡しされると、子どもは内容を確認し、スケジュールの指示に沿って活動を進めていく。



1日のスケジュール (携帯式)

・壁に掲示するスケジュールのタイプではなく、ノート形式にして持ち運びができるようにしている。将来的にはできる限り小さくして、カバンやポケットに入れることができるタイプにしてもよい。